

ギャンブル依存症勉強会・当事者家族相談会

全国ギャンブル依存症家族の会京都

〒630-8325 奈良県奈良市西木辻町 63-23-106

助成事業の概要

ギャンブル依存症家族の会は、ギャンブル依存症に苦しみ悩む家族が連携して問題の解決を図ることを目的に活動しています。

家族の会としての主な活動内容は下記の通りとなっております。

[1] ギャンブル依存症の家族会・当事者会を開催し、依存症を理解するための学習及び、ピアサポート (月 1 回)

[2] 依存症専門家による当事者・家族対象の相談会 (年 1 回)

[3] 依存症専門家や当事者・家族による講演会、啓発セミナー (年数回)

[4] 関係機関 (行政・医療・司法・警察など) との連携

[5] ギャンブル依存症啓発資材の作成、配布、掲示活動

[6] ギャンブル依存症回復施設との連携

今回は上記のうち、[2] と [3] の活動に対して助成いただき、3 事業を行うことができました。

[2] 依存症専門家による当事者・家族対象の相談会

開催日：2023年9月23日 (土)

場 所：ハートンホテル京都

講 師：公益財団法人ギャンブル依存症問題を考える会代表 田中紀子氏・当事者支援部

[3] 依存症専門家や当事者・家族による講演会、啓発セミナー

開催日：2023年9月23日 (土)

場 所：ハートンホテル京都

講 師：公益財団法人ギャンブル依存症問題を考える会代表 田中紀子氏

桜花法律事務所所長 京都弁護士

会 中島俊明弁護士

俳優・作家 ASK 依存症予防教育アドバイザー 高知東生氏

開催日：2024年1月20日 (土)

場 所：京都市北文化会館

講 師：一般社団法人グレイス・ロード統括センター長 池田文隆氏
生活支援スタッフ 八木真介氏

事業の成果

2023年9月23日 (土)

相談会参加者： 家族10組14名・当事者3名

講演会参加者： 家族135名・当事者30名・支援者15名

2024年1月20日 (土)

講演会参加者： 家族48名・当事者6名・支援者2名・京都新聞記者1名

上記の参加を頂き、開催することができました。

いずれもギャンブル依存症者と家族に関わっている専門家をお招きし、最新の依存症支援の話をしていただくことで、家族も当事者も支援者も病気への正しい知識を持ち、適切な対応をしていけば「回復できる」という、希望の持てる講演会となりました。

また、相談会で支援者の方々からは「相談に来られた方たちに対してどこにどうつなげていくかといったことをより理解できた」というお声もいただきました。

セミナーと相談会を開催し、当事者・家族と支援者に参加してもらうことで、行政の相談窓口担当者、家族会、病院の相談員、弁護士、警察との顔の見える関係ができました。

ギャンブル依存症は、WHO(世界保健機構)で認められた病気ですが、一般には「意志が弱い・だらしない」というような見方が根強くあり、偏見の目を気にして相談できない状況があります。そして公的支援体制も十分ではないのが現状です。そのため、病気から起こる嘘や借金などに苦しむ家族と当事者がどうしてよいか分からないまま、社会から孤立していくことが少なくありません。そんな中に今回企画した相談会と講演会には、たくさんの方に足を運んでいただくことができました。それは、コロナ禍においてスマホで手軽に投票できるようになった公営ギャンブルをはじめ、違法とは知らずにネットカジノなどのギャンブルに手を出し、行き詰った人たちが増えたことを物語っており、このような事業は現代社会に求められていることを強く感じました。当会メンバーも、ギャンブル依存症とはどういう病気なのか、周囲の人はどう対応していけばよいのかといった具体策を専門家から学ぶことができ、どう問題を解決していくかの知恵を得られた貴重な機会となりました。

成果の広報・公表

日本社会において「ギャンブル依存症は病気である」という認識がいまだ広まっておらず、知識のない当事者と家族が、どこにも相談せず、自分たちだけで何とかしようとして病気が進行してしまう状況にあります。病気が進行すると、借金問題から、窃盗や横領・強盗などの犯罪に及ぶことや、家庭内においては暴言・暴力などのDVや、貧困・ネグレクト・虐待へ向かうこともあり、重大な社会問題を引き起こします。ギャンブルによって、借金やその他の問題を繰り返す依存症者に対して、何とかできる方法はないだろうかとの悩み、自分を責め、苦しんできたのが私たち家族です。その家族たちがこのような事業を企画し、日社済様より助成金をいただいたことで、地域で苦しんでいる当事者、家族、支援者が、病気について学ぶ機会を得ることができました。そして当事者・家族・支援者がそれぞれに関係を作れたことは今回の大きな成果でした。ギャンブル依存症当事者、家族、支援者が正しい知識を得、人とのつながりを持つことで問題を解決に踏み出す一助となりました。

以上のことは、京都府ギャンブル等依存症対策推進会議にて広報・公表し、京都市こころの健康増進センター・同志社大学・京都文教大学へ広報しています。

今後の展開

コロナ禍以降、特に若い世代のギャンブル依存症者が急増しており、当会にも子育て中の夫婦が、多額の借金を抱え相談に来るケースが多くなっています。オンラインでできるギャンブル(公営競技等)の普及が進んでいることから、ギャンブル依存症の低年齢化が危惧されます。国の施策を待っているだけでなく、身をもってこの病気の怖

さを知る私たち家族が啓発活動をしていきます。
また、表面上の問題（金銭問題等）だけに注力するのではなく、ギャンブル依存症の根本的な問題（病気）に対処できる支援者や家族を増やし、連携してこの問題に対応できる社会構築が急務です。

ギャンブル依存症者の回復が進むよう、病気に対する正しい知識を広め、支援者の資質向上を図り、家族が希望を持てるよう、講演会と相談会はこれからも継続して開催します。

支援の輪が広がっていくよう他県の家族会とも交流し、切磋琢磨しあいながら、ギャンブル依存症家族の助け合い活動を進めてまいります。今後もご支援の程よろしくお願い申し上げます。